

都道府県別賞一等

備えるという事

福島県 西郷村立西郷第一中学校 一学年

大川原 葉月

夏休みに入りすぐ、母が言いました。

「ママ、入院して手術することになったよ。」

あまりに突然の言葉に、私は

「ふーん。」

と、気持ちがちもっていない、いい加減な返事をしました。本当は、あまりにも急なことに驚き、とても不安で、『大変なことになったらどうしよう。』『母の入院中はどうやって生活するのだろう。』と、感じたことのない不安におそわれました。

父と母は、母の入院中のスケジュールの調整や、私と兄の生活面のことなどを話し合っていました。また、職場に連絡をして休みを調整し、仕事の内容についても話をしていました。その後、母は私と兄に病名、手術の内容、入院期間などをわかりやすく説明してくれたので、少し安心することができました。心配性の母は、入院中の私たちの生活をとっても心配して、あれこれ紙に書いて冷蔵庫に貼っていました。私も母のいない生活は淋しく、心細くて心配でしたが、一番大変なのは母なので、入院の日も笑顔で見送りました。

無事に手術が終わり、母から連絡がきた時は心からほっとしました。母のいない十日間を父と兄と私でなんとか過ごし、退院の日を迎えました。私は母の退院がうれしくて病室まで迎えに行きました。ちょうど会計の最中で、そこでたくさんのお金を払うことを知りました。私にとっては大金だったので、思わず母に

「そんなに払うの？」

と聞くと、医療費が高額になった時に自己負担額を軽くしてくれる国の社会保障制度があり、母は加入しているのです、これでも十分に経済的な負担が少ないことを教えてくれました。しかし、その制度だけではカバーできない金銭的な負担があることも教えてくれました。入院時の差額の部屋代や一部の食事代、交通費は社会保障制度の対象ではないので、自分で払わなければならないことや、退院後もすぐに仕事には行けないので収入が減ったりすることもあると教えてくれました。私は慌てて、

「私は大丈夫なの？」

と聞きました。母は続けて、対象ではない部分を保障してくれる生命保険に

第63回中学生作文コンクール

についても教えてくれました。心配性の母は、もしもの時のために保険に入っていました。生命保険にはたくさん種類があり自分の年齢や生き方、家族構成や将来のことを考えて入るそうです。入院、手術、事故、身近に潜む突然の出来事に備えて加入することで、国の制度だけではカバーしきれない部分を金銭的に補ってくれる心強い存在だそうです。今回の入院もその保険のおかげで助かったと聞きほっとしました。

生命保険についてはCMなどで見かけるだけで内容に興味を持つことはありませんでしたが、母が入院したことで、生命保険の大切さを知ることができました。母は、ただ保険に加入するのではなく医療の進歩や治療方法の変化などに応じて定期的に保険を見直して時代に合った保険を選んでいるそうです。また、両親だけでなく、私や兄にもそれぞれに合った保険に加入していて、もしもや突然の事態に備えていてくれることも知りました。社会保障制度だけではカバーできない金銭的な負担を軽くし、突然の入院や手術などに備えることはとても大切だと思います。

夏休み、母の急な入院で母の大切さを改めて実感しました。そして、冷蔵庫の貼り紙と生命保険は守りのような存在で、「その存在におたがい助けられたね。」と、元気になった母と笑って話すことができてとても幸せです。